

大地が育んだ、生命や知恵の力を生活シーンのアイテムにして、豊かさの再定義をしてみたい——そんな願いを込めて。

ブランドとしてはまだ若いライフマジックですが、プロジェクトを形にしていくために創業前に手に入れ、自分たちに馴染ませてきたものが2つあります。

1つめの持ち物は、畑。

2007年の冬、わたしたちは神奈川県・三浦半島の農作地域で農家さんから土地を借りて畑の運営を始めました。25坪ほどの小さな畑ですが、やってみると思ったより1年を通じてたくさん品種が育てられるし、家族1つでは食べきれないほどの収穫量があります。自然と向き合いながら自分たちの手で食べ物を作っていると、いろいろな思いが心や身体を巡ります。早朝の畑の、あの生命の力が漲る緑の匂い。凜とした空気がくれる肌触りの心地よさ。顔なじみになった農家の人たちの言葉ひとつひとつには、大地のエネルギーを分けてもらうための凝縮された知恵や自然の理の深淵を感じるばかりです。

ライフマジックのもう1つの持ち物は、山小屋です。

三浦半島に畑を借りるのと前後して、わたしたちは長野県・川上村の山奥に小さなキャビン建てました。そこは雄大な自然に包まれた爽快な気分になれる場所でありながら、電気も水道もない究極の不便さを体感する場所でもあります。灯りはランタン、暖は薪ストーブ、水はキャビンのそばを流れる溪流から汲んできます。

モノに囲まれる日常生活から抜け出して、その場所で過ごしはじめると、初めのうちはいろいろな不便さに戸惑い苛立つばかり。けれど、そうしたストレスはやがて消えていきます。不自由さを補うために、ずっと昔に身につけていた記憶や勘が戻って来たり、新しい知恵が生まれてきたりするからです。

都会の暮らしではあまいになりがちなことも、この場所でははっきりしてきます。たとえば、日が出ている明るいうちにやっておくべきことと、手元が暗い夜になってからでもやれること。あるいは、なくてはならないものと、なくても困らないもの。ささいなことばかりですが、そうやって生活を支えるための工夫や新しい発見をしていくうちに、不思議な自信や満足感が生まれてきます。

こんな風に、自分たちにとって小さな畑やキャビンで過ごすひとときは“豊かさ”の意味について見つめ直す時間でもありました。やがて私たちはそこで感じた豊かさや贅沢さを象徴するような生活アイテムを創造して、それを逆に都会の暮らしにも馴染ませてみたいと考えはじめました。

そして、2009年の夏。私たちはライフマジックというブランドを始めました。

クオリティ・オブ・ライフに関わる話題が世間でもいよいよ注目を集めています。こうした世の中の動きのなかで、ライフマジックは、とくに自然の恵みや、その恩恵を知る人たちとの出会いに感謝しながら、良いモノやサービスを創るブランドとしてたおやかに育っていきたく願っています。

feel the soil.
いまより少しだけ土に近い暮らし。

